


# 1 作物

項目	作業内容																								
<p>(1) 普通期水稻の育苗管理と移植前の準備</p> <p>(2) 麦の管理</p>	<p>(今月の作業のポイント)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○普通期水稻の育苗管理</li> <li>○麦の管理</li> </ul> <p>5月は普通期水稻の育苗が始まる。育苗管理については「今月の天候と農作業(3月)」、移植前のほ場準備については「今月の天候と農作業(4月)」を参照する。</p> <p>ア カラスノエンドウの種子、異物の混入防止</p> <p>収穫物にカラスノエンドウの種子(写真)や異物(金属・ガラス・石)が混入すると、調製・精麦・加工段階での除去は難しい。これらは県産麦の評価を著しく低下させるため、徹底した混入防止に努める。</p> <p>対策としては、収穫までにはほ場内や畦畔・農道を巡回しカラスノエンドウを抜き取り、ほ場周辺から完全に除去するなど生産者による立毛調査(互評会やほ場巡回)を行い、地域ぐるみで対応する。また、空き缶やビンを回収し、収穫時の刈込みを防ぐ。</p>  <p>写真 カラスノエンドウ</p> <p>イ 麦の適期収穫</p> <p>農林水産研究所作況ほ場(11/16播)の出穂期はハルヒメボシ 3/18(平年値 3/19)、チクゴイズミ 3/26(平年値 3/27))と平年より1日早かった。出穂後の平均気温は高く、また、1か月予報(4月13日高松気象台発表)における平均気温は平年に比べて高いことから、成熟期は平年より早くなると予想されるので、刈り遅れないよう注意する。</p> <p>表1 令和5年産麦の成熟期予想(農水研ほ場から予想)</p> <table border="1" data-bbox="475 1765 1385 1906"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="3">播種日</th> </tr> <tr> <th>11/7</th> <th>11/16</th> <th>12/15</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ハルヒメボシ</td> <td>—</td> <td>5/7~5/10</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>チクゴイズミ</td> <td>5/16~5/21</td> <td>5/22~5/27</td> <td>5/29~6/3</td> </tr> </tbody> </table> <p>表2 成熟期の目安</p> <table border="1" data-bbox="475 1973 1385 2078"> <thead> <tr> <th></th> <th>ハルヒメボシ</th> <th>チクゴイズミ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>出穂後日数(日)</td> <td>47~58</td> <td>51~67</td> </tr> <tr> <td>積算温度(℃)</td> <td>760~830</td> <td>920~1040</td> </tr> </tbody> </table> <p>過去5年間(2018-2022)の農水研作況ほ場データから作成</p>		播種日			11/7	11/16	12/15	ハルヒメボシ	—	5/7~5/10	—	チクゴイズミ	5/16~5/21	5/22~5/27	5/29~6/3		ハルヒメボシ	チクゴイズミ	出穂後日数(日)	47~58	51~67	積算温度(℃)	760~830	920~1040
	播種日																								
	11/7	11/16	12/15																						
ハルヒメボシ	—	5/7~5/10	—																						
チクゴイズミ	5/16~5/21	5/22~5/27	5/29~6/3																						
	ハルヒメボシ	チクゴイズミ																							
出穂後日数(日)	47~58	51~67																							
積算温度(℃)	760~830	920~1040																							

項 目	作 業 内 容																		
	<p>麦の成熟期は、全体の 80%以上の穂首が黄色くなってツヤがなくなり、穂色が黄緑色から品種固有の色に変化し、粒がろう状の硬さに達した時期である。穂首の曲がった穂の割合では、ハルヒメボシでは約半数に達した時とされており、出穂後日数で 47～58 日程度である（表 2）。</p> <p>コンバインの収穫適期は成熟期の 2～3 日後になる。穀粒水分 25%以下で収穫し、収穫後はすみやかに乾燥する。成熟数日前の 1 日当たりの穀粒水分はおおむね晴天日に 3～6 %、曇天日は 2 %減少するので、刈取り時期を予測して適期刈取りを行う。収穫適期より 2 週間早く収穫すると未熟粒が多く、1 週間以上刈り遅れると退色粒が増加して、いずれも等級が低下する（下図）とともに、硝子率は早刈りで高くなるので、適期収穫に努める。</p> <p>なお、降雨直後等の高水分時の収穫は極力避ける。やむを得ず高水分（穀粒水分 30%まで）で収穫する場合、コンバインのこぎ胴の周速度を通常より 10～20%下げる。収穫後に長時間（穀粒水分 40%で 6 時間以上）放置すると穀粒の変質や赤かび病の感染拡大が懸念されるため、収穫後は直ちに乾燥を行う。</p> <div data-bbox="619 1137 1348 1406" data-label="Image"> </div> <table border="1" data-bbox="491 1406 1348 1512"> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>-2 週</th> <th>-1 週</th> <th>成熟期</th> <th>+1 週</th> <th>+2 週</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>等級</td> <td>2 等</td> <td>1 等</td> <td>1 等</td> <td>1.6等</td> <td>2 等</td> </tr> <tr> <td>(落等理由)</td> <td>(未熟)</td> <td></td> <td></td> <td>(退色)</td> <td>(退色)</td> </tr> </tbody> </table> <p>図 ハルヒメボシの刈取時期別の検査等級 (H30 年産)</p> <p>ウ 麦の乾燥・調製</p> <p>穀粒水分 25%以下の場合は、45～50℃で乾燥する。高水分の場合（25～30%）は、退色粒の発生を防ぐため、40℃以下で乾燥する。乾燥は 1 時間あたり 0.8%の水分減少を目安とし、はだか麦では 13%以下になるまで乾燥する。</p> <p>調製は、実需者から望まれる高品質な麦を供給するという点を最優先し、雑草種子や異物、赤かび病罹病粒の除去、荷口ごとの品質の均一化、細粒の混入防止に努める。</p> <p>グレーダーの篩目は、ハルヒメボシでは 2.2 mm 以上、チクゴイヅミでは 2.3 mm 以上とし、入念に調製する。</p>	時期	-2 週	-1 週	成熟期	+1 週	+2 週	等級	2 等	1 等	1 等	1.6等	2 等	(落等理由)	(未熟)			(退色)	(退色)
時期	-2 週	-1 週	成熟期	+1 週	+2 週														
等級	2 等	1 等	1 等	1.6等	2 等														
(落等理由)	(未熟)			(退色)	(退色)														

（作成 農林水産研究所）